第2号様式 別紙2（第13条関係）

「地域金属加工メーカーによる大学生との商品開発を通じたコアバリューの可視化プロジェクト ―大学生向け金属製マルチポールハンガーの開発・製造・販売－」

京都橘大学　経営学部
教授　丸山　一芳

1,事業概要

地域の中小企業は、優れた技術を持ちながらも若年層にその魅力をアピールすることが困難な状況にある。一方、大学生は多くの情報を収集できるが、信頼性の高い情報や地域の現場情報に接する機会が減少している。この双方の課題を解決するため、地域企業と大学生の共同商品開発事業を実施した。例えば、中小企業の製品は企業向けの部品や中間財が多く、学生にはわかりにくい。また、中小企業は大企業からの発注に依存し、独自の製品開発が難しい状況にある。そこで、自社の中核技術を活かした大学生向け最終製品を共同開発し、企業の技術や経営方針、企業文化を可視化することが本事業の目的である。

具体的には、金属加工業の西田製作所と京都橘大学の学生が協力して大学生向けのマルチポールハンガーを開発した。学生たちは工場見学や技術の説明を受けて中核技術を理解し、最終消費者向けの製品を発案した。大学生の生活様式に関する課題をフォーカスグループやアンケート調査で明らかにし、商品のカテゴリーとスペックを決定した。西田製作所での金属加工技術の可能性を現場で確認しつつ、夷川通りや大手家具店で競合商品のベンチマーキングを行い、差別化ポイントを探索した。デザインと金属加工技術の可能性、コストを考慮し、試作を繰り返した。販売を想定した組み立て方法や配送における箱のサイズ、安全性、デザイン性、使い勝手などの課題が次々に生まれたが、それを丁寧に解決していった。

結果として、学生はものづくりの面白さと難しさを体感し、西田製作所も部品とは異なる最終製品開発の経験を積むことができた。完成した試作品は「京都市産技研 UC 創造フォーラム」において発表し、産学連携の成果として議論されるに至った。

2,事業実績

●大学生用金属製マルチポールハンガーの開発・設計・試作・製造
●地域製造業者のコアバリューの可視化:
・実際の製品化にあたり中核技術を製品に落とし込むことができた。
・また、西田製作所社員および京都橘大学の学生双方がそのことを体感的に学習できた。
●京都市産技研 UC 創造フォーラムでの講演・発表

3,今後の活動について

今回の産学連携事業を通じて、地域ものづくり企業のコアバリューを理解した学生が、実際に連携先企業へ入社することになった。彼が連携をより深めていくキーパーソンとなるため、彼を中心に本事業において残されている製品の安全性確保ならびにコストダウンについて引き続き活動を継続していく。